



◆◆◆後期早産児へのサポート◆◆◆

最近あった症例で、産院を退院と同時に、泣きながら来院されました。症状は、乳腺炎がいちばんのお悩みのお様子だったので、まずは小児科にて薬を処方し、次の日に来院をしてお話を聞いていると、お子様がまだ退院されておらず、症状をうかがうと、後期早産児に起こりやすい合併症を起こしていることが分かりました。後期早産児は、少し早く出生した児とも呼ばれます。哺乳に関するトラブル、低血糖、黄疸、呼吸障害、体温調節の問題など正常産児に比べて、高率に発生することが知られています。後期早産児は、母乳を効果的に飲みとるのが、難しいこともあるため、きめ細やかなサポートが必要となります。

出生児体重が2400gで、アプガールスコアが6点、黄疸があり、母親はとにかく他の子に比べて泣き方が弱々しいと訴えてきました。産院では、ミルクを1回量40ccを飲むようになったら退院を考えましようとして説明を受けていました。

後期早産児の特徴として、①眠りがちなので授乳しようとしてもなかなか飲まない

②飲み始めてもすぐに眠ってしまう

母親が「泣いたら飲ませよう」と思っていると、授乳回数が少なくなることがあります。欲しかったときに、すぐに授乳ができずに泣かせたままにしておくと、疲れて眠ってしまて飲めないこともあります。なるべく24時間に8回以上授乳するようにしていきましょう。

5分・5分・3分・3分と左右交互に、短時間で授乳することが、赤ちゃんが疲れなくて、たくさんの母乳を飲んでくれることとなります。

①児が適切な吸着をしているサイン ②母乳が飲みとられているという児側のサイン

- ・口が大きく開いている
- ・唇が外向きに広がっている
- ・鼻、頬、下顎は乳房に付いているか、ほとんど付きそうになっている
- ・時々休止しながらリズムカルな吸啜
- ・嚥下パターンを続けている
- ・嚥下音がする
- ・腕と手はリラックスしている
- ・口が湿っている
- ・授乳後は満足している



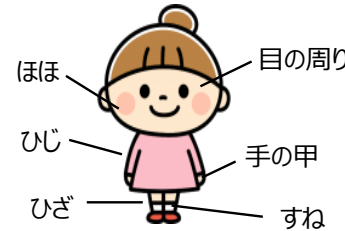
③母乳が飲まれるという母親側のサイン

- ・乳房が強く吸われ引き込まれるが、痛みはない
- ・喉が渇く
- ・産後3～5日間は、授乳中または授乳後に子宮が収縮するか悪露の流れが多くなる
- ・授乳中、もう片方の乳房から母乳が漏れる
- ・リラックスして、眠気を催す
- ・授乳中に乳房が柔らかくなる
- ・授乳後、乳頭が引き伸ばされて長くなるが、つままれたようにつぶれていたり、擦りむけたりしていない

◆◆◆ドライスキン◆◆◆

冬は空気が乾燥する季節で、エアコンなどにより、さらに肌トラブルが起きやすくなってしまいます。乾燥肌とは、皮膚の角層と呼ばれる部分の水分量が低下して、肌が乾燥した状態をいいます。皮膚のバリア機能が低下することで、刺激物質が容易に入り込みやすくなり、かゆみを伴います。日頃から、スキンケアを適切に行い、肌を健やかに保つことが大切です。

乾燥しやすい場所



《対処》

- ①よく泡立てた石けんでやさしく洗う
- ②少しぬるめの温度(38～40度)
- ③化粧水、保湿クリーム、保湿剤などで保湿する
- ④加湿(60%)や日焼け止めを使う

◆◆◆卵黄による消化管アレルギーのトピックス◆◆◆

最近、卵黄に反応を起こす消化管アレルギーが増えてきています。テレビ、YouTubeなどでお肉の上や、どんぶりご飯の上に卵黄がおいしそうに乗せられた料理が流行っています。

流行の後には、アレルギーが出現するような気がしています。

食べてはいけないのではなくて、同じ食材を取り過ぎないことが大事なことに思えます。

バランスよく、回転食がアレルギーを起こしにくくすることにつながっていくと思います。

個人差もありますので、症状が出現する人と、同じものを食べても症状が出ない人もいらっしゃいます。

今までは卵アレルギーの場合、卵黄から解除して、負荷テストをしていたのですが、真逆の対応をしなければならなくなっています。卵黄の食べ方の変化によって、新たな卵アレルギーの捉え方をせまられることになっている気がしています。

卵黄アレルギーの症状の出現の仕方は、数時間後の嘔吐です。

気になる症状がある方はご相談くださいね。

「2月の代診のお知らせ」

15日と22日の水曜日は畠添先生の診察になります。診断書の記入や体重チェック、臍ヘルニアの診察の方は院長先生の診察日に来院していただくようお願いいたします。

「診療時間」月曜・火曜・木曜・金曜：9時～12時、14時～18時（17時30分受付終了） 予防接種専門外来：14時～15時

水曜：9時～12時、土曜：9時～13時

健康診断（4か月・10か月・1歳6か月）：月曜・火曜・水曜・木曜・金曜（予約制）

